

1-11

おいしくて楽しい食事環境に向けての取り組み

～おいしく食べれば、元気になれる～

ソフト食への挑戦

楽しい食事

特別養護老人ホーム ヨコタホーム

介護員兼介護支援専門員・江口徹

管理栄養士・岡部洋子

東京都福生市福生 2300 番 4

介護職員・山崎順之介

TEL 042-553-6633

E-mail sakoda@mokuseikai.or.jp

FAX 042-553-6686

URL http://www.mokuseikai.or.jp

施設またはサービスの概要

特別養護老人ホームヨコタホームは平成 8 年 4 月に開設され、入所定員 100 名・ショートステイ 6 名の施設です。2 階と 3 階にそれぞれ 50 名とショートステイの方が生活されています。ホームの平均介護度 3.54、平均年齢 83.6 歳。

<取り組んだ課題>

- ①常食・常菜が食べられない利用者の体重の低下が顕著にみられ、床ずれの発生者もいた。
- ②嚥下困難者に対して、今では危険といわれる刻み食やミキサー食をなんの疑問もなく提供していた。そこで、利用者が快適な生活を送るためには「食事をおいしく食べる」という視点に立ち、食事をさまざまな角度から見直し、改善にむけて取り組んだ。

<具体的な取り組み>

- ①食事内容の見直し
 - ・常食を目標にした食事形態の見直し
 - ・フロアでの炊飯
 - ・代替食、好物での対応、出前の活用
- ②食事環境の見直し
 - ・食事環境の改善（テーブルクロス、生花、音楽など）
 - ・車椅子利用者の姿勢を見直す（足を床に下ろす、椅子に移るなど）
 - ・食事介助時の工夫（座って介助、一緒に昼食をとりながら介助、スプーンから箸に変更、金属製のスプーンをシリコンスプーンに変更）
- ③栄養士・調理師との連携
 - ・栄養ケアマネジメント（毎月の体重測定）
 - ・栄養士・調理師が、毎週、利用者から、献立についての意見を聞いている。

<活動の成果と評価>

- ①食欲が低下している入居者に対して、食へのきっかけづくりを考えることもケアととらえるようになった。

②食事形態の変化

主食

平 17 年 10 月		平 18 年 6 月 19 日現在	
常食	55 名	⇒ 常食	62 名
全粥	20 名	⇒ 全粥	17 名
五分粥	3 名	⇒ 五分粥	0 名
ミキサー粥	1 名	⇒ ゼラチン粥	0 名

副食

平 17 年 10 月		平 18 年 6 月 19 日現在	
常菜	22 名	⇒ 常菜	50 名
刻み	25 名	⇒ ソフト 1	11 名
超刻み	23 名	⇒ ソフト 2	14 名
ミキサー	9 名	⇒ ミキサー固形	4 名

③体重の変化

	増加	低下
1,0kg 未満	17 名	
1,0kg～3,0kg 未満	13 名	10 名
3,0kg～5,0kg 未満	6 名	13 名
5,0kg 以上	20 名	3 名

④ソフト食の提供

ソフト 1 (62 種類) ソフト 2 (68 種類)

⑤床ずれの改善

ステージⅢの床ずれ（ポケットあり）が治癒した。
（平 17 年 10 月 2 日～平 18 年 5 月 18 日）

<今後の課題>

- ①低栄養の対極にある体重増加・栄養過多からの生活習慣病にも配慮した食事の展開が必要となる。